



科博NEWS展示 「我が家にまりも！？ ～一般家庭の水槽で見つかったまりもの調査～」のご案内

独立行政法人国立科学博物館(館長:篠田謙一)は、来る2024年7月17日(水)から9月1日(日)まで、科博NEWS展示「我が家にまりも！？～一般家庭の水槽で見つかったまりもの調査～」を開催いたします。

当館が本年3月27日に行ったプレスリリース「ふたたび見つかった民家の水槽だけで発生するモトスマリモ」は多くのメディアに幅広く取り上げられました。新聞やテレビ報道を通じて、当館研究者が同様の事例に関する情報提供の呼びかけを行ったことにも大きな反響があり、当館へ日本各地から続々と情報が寄せられ、「まりも」と思われる実物試料も送られてきました。解析の結果、これらの試料にはモトスマリモだけでなく、日本で知られている全てのまりもの仲間(5分類群)が含まれていることが分かり、様々な新しい知見を得ることができました。これらのまりもについて、水槽の展示と共に、まりもの仲間の紹介、全国各地のまりもが見つかった水槽写真の一覧展示、そして当館研究者等が富士五湖で行ってきたまりもの研究について紹介します。

【開催期間】 令和6年7月17日(水)～9月1日(日)

【開催場所】 国立科学博物館(東京都台東区上野公園7-20)

地球館1階オープンスペース

【主催】 国立科学博物館

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

経営管理部 研究推進・管理課 研究活動広報担当：稲葉 祐一 中山 瑠衣

担当研究員：辻 彰洋(植物研究部 研究主幹)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

TEL:029-853-8984 FAX:029-853-8998

E-mail: t-shuzai@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP <https://www.kahaku.go.jp/>

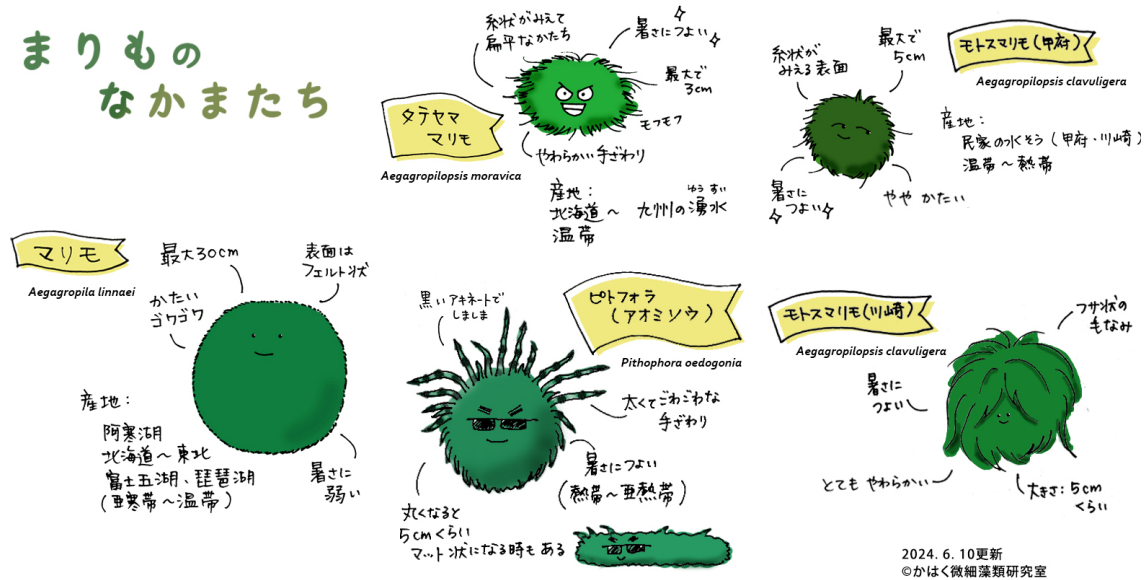
【展示概要】

展示は下記の3つのゾーンから成り立ちます。

① まりものなかまたち

今回の調査では今まで日本で知られていた全てのまりもの仲間（5分類群）が見つかりました。それらについて、イラストも交えてその特徴を紹介します。

まりものなかまたち



② まりものいる風景

今年2例目のモトスマリモが見つかり、各メディアで当館が水槽のまりもの情報提供を呼びかけたところ、46件もの情報が寄せられました。そのうち、26件の方に試料を送っていただき当館で検討を行った結果、まりもの5つのなかまの全てが家庭の水槽から見つかりました。今年初めまでは日本で2例しか情報がありませんでしたが、3ヶ月足らずのあいだに20例を超える出現例が集まりました。東京の湧水地帯に由来すると考えられるタテヤママリモが見つかるなど、新しい知見も多く含んでいます。



全国各地から送られてきたまりもの仲間



千葉県市原市の家庭用水槽

③ 当館のまりも調査

当館のまりもの調査は、山中湖村から1956年（昭和31年）に当時小学3年生だった亀田良成氏が採集し、栽培したものを50年後に当館に持ち込まれたのが始まりです。この経緯について絵本「富士山のまりも」（福音館書店）として出版されました。この事がきっかけとなり、2013年から当館と山中湖村教育委員会との間で山中湖の共同でのまりもの学術調査が始まりました。2022年の甲府、2024年の川崎、そして今回の水槽からのモトスマリモの発見に伴い、今では富士五湖全体の調査や、関東周辺での河川調査も始めています。

【関連情報】

プレスリリース

ふたたび見つかった民家の水槽だけで発生するモトスマリモ（2024年3月27日）

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000746.000047048.html>

プレスリリース

日本では3種目のマリモ類の発見！モトスマリモと命名（2022年11月10日）

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000523.000047048.html>

プレスリリース

「山中湖のまりも（山中湖村フジマリモ生息調査報告書）」の出版 ～ふたたび退潮傾向が明らかになった山中湖のマリモ 地球温暖化が影響か？～（2021年3月31日）

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000232.000047048.html>

ホームページ：小さな「も」の世界

https://www.kahaku.go.jp/research/db/botany/microalgae/microalgal_kids/